

平成 29 年度 決算 の 状 況

平成 29 年度の世界経済は、中国や米国経済の持ち直しが続き、ユーロ経済圏も回復の勢いを増すなど、堅調に推移し、国内においては、世界経済の回復に加え、技術革新の進展等を受けて増加する情報関連財の需要が世界的に高まるなか、輸出や生産の持ち直しが続いたことなどから、企業業績は堅調に推移し、雇用・所得状況も改善が続きました。

日本、特に地方においては、人口減少が進むなかで高齢化が加速し、医療や介護などの社会保障費の増嵩が見込まれています。一方で、東京オリンピック・パラリンピック、本市においては新幹線開業などの機会も控えています。

平成 29 年度においては、引き続き、市債の圧縮や基金の確保に努めるなか、公立小松大学の開学準備、認定子ども園への移行推進、南加賀のターミナルに向けた J R 小松駅周辺整備、企業との連携で進める観光・交流・人材育成施設の整備など、人口減少克服などの将来課題への対応、グローバルな大交流時代の到来を成長・発展につなげるための様々な施策を実行し、地方創生に向けて取り組みました。

歳入歳出性質別決算を前年度と比較すると、歳入では、法人税率の引下げの影響を上回る業績回復による法人市民税の増額、雇用・所得環境の改善による個人住民税の増額、住宅需要の増加等により固定資産税が増額となり、市税全体として 2.1% (約 3.2 億円) の増額となりました。また、エコロジーパークこまつ・クリーンセンターの建設本格化による国庫支出金の増額、除雪対策に対する特別交付税の増額、ふるさと納税 (個人版・企業版) の増額などにより、歳入全体としては 12.2% (約 52.7 億円) の増額となりました。

歳出においては、認定こども園の増及び保育士処遇改善等により扶助費が 3.1% (約 3.0 億円) の増額、農業用施設の防災対策や学校給食のアウトソーシングなどの委託料の増加等により物件費が 9.1% (約 4.8 億円) の増額、除雪費増により維持補修費

が 167.5% (約 4.5 億円) の増額, エコロジーパークこまつ・クリーンセンターの建設本格化, 小松駅周辺施設整備等により普通建設事業費が 72.8% (約 46.2 億円) の増額となり, 歳出全体では 11.9% (約 50.9 億円) の増額となりました。

なお, 各会計の決算状況は次のとおりです。

1. 一般会計

予算額 49,817,243 千円の内 1,267,421 千円を次年度に予算繰越し (繰越明許費 1,130,348 千円, 事故繰越し 137,073 千円) し, 決算額は, 歳入 48,527,353 千円, 歳出 47,762,860 千円で, 繰越財源 207,095 千円 (繰越明許費 190,714 千円, 事故繰越し 16,381 千円) を除いた実質収支額は 557,398 千円の黒字決算となり, その内 280,000 千円を基金へ積み立て, 実質繰越額は 277,398 千円となりました。

2. 特別会計

(1) 国民健康保険事業

予算額 12,064,565 千円に対し, 決算額は, 歳入 12,098,826 千円, 歳出 11,867,024 千円で, 実質収支額は 231,802 千円の黒字決算となり, その内 36,000 千円を基金へ積み立て, 実質繰越額は 195,802 千円となりました。

(2) 介護保険事業

予算額 9,879,481 千円に対し, 決算額は, 歳入 9,783,905 千円, 歳出 9,577,448 千円で, 実質収支額は 206,457 千円の黒字決算となり, その内 125,458 千円を基金へ積み立て, 実質繰越額は 80,999 千円となりました。

(3) 公債管理

予算額 8,412,300 千円に対し, 決算額は, 歳入歳出とも 8,411,916 千円となりました。

(4) 産業団地事業

予算額 991,400 千円の内 276,400 千円を次年度に予算繰越しし、決算額は、歳入歳出とも 542,373 千円となりました。

(5) 後期高齢者医療

予算額 1,404,601 千円に対し、決算額は、歳入 1,390,091 千円、歳出 1,357,682 千円で、実質収支額は 32,409 千円の黒字決算となりました。